

9. 日本での日常生活にあたって

日本人の傾向として、侘び寂びを重んじ、何事にも風流さを求める、世界にもあまり類を見ない、物事の内面を推し量ることを重視します。また、何事にも我慢強く、まじめに取り組むことができるという特性があり、繊細で細やかな点の気遣いができます。目上や年上をたて、でしゃばらず、他人に利点を譲る文化があります。国によっては思ったことをすぐ口にして自分を主張したり、他人の間違いを大勢の前で否定したりすることを当然の習慣としている国があります。しかし、日本ではそれらの行為は一般的に受け入れられません。日本の文化は、相手の立場になって物事を考え、控えめに自己を表現するところを美德とし、これが日本人の特徴の一つです。しかし、近年は残念なことに老若男女を問わず、自己中心的な言動をとる日本人が増えてきました。良い解釈をすると、日本人の性格的な部分においてもグローバル化が進んできているのかもしれませんが、最近のいわゆる「自己チュー」（自己中心的な性格をさす）や、「キレる」（こらえ性がなく、すぐに暴力的な言動に訴え出る）ことは、傍から見ていて決して気持ちのよいものではありません。留学生の皆さんは、日本人のよいところを学びとって下さい。

(1) 日本でのマナー

ここでは日本での生活上における一般的な常識、マナーについて紹介します。具体的な事例を挙げて説明していきますので、自分自身で各項目を確認して下さい。

① あいさつしましょう。

日本人は「礼」を重んじます。あいさつは「礼」に含まれるものです。朝晩のあいさつの他、公的な部屋への入退室の際にも「失礼します」、「失礼しました」等のあいさつをすることが常識、あるいは美德とされています。これに会釈（相手に軽く頭を下げる）や、おじぎ（頭を下げて礼をすること）が伴うと日常のあいさつマナーとしてほぼ完璧です。

② 時間（約束）を守りましょう。

日本には「5分前行動」という言葉があります。集合時間や、開始時間の5分前には集合・整列・着席等を完了することが求められます。なお、約束した時間に遅れそうなときは、必ず遅れる旨を相手に連絡しましょう。

③ 順番を守りましょう。

順番待ちをするときに日本人は並ぶ習慣があります。乗り物に乗る時や、食事の順番待ち等で列（行列）を作ります。横入りや、順番とぼしはマナー違反になります。皆さんも電車やバス等も含め、順番待ちがあるときは列の最後尾に並ぶようにして下さい。

④ 清潔にしましょう

日本人は基本的に毎日入浴します。臭いに敏感な国民性のため、体を清潔に

保つことは当たり前となっています。入浴をせずに、香水やコロン等をつけ、強い香りを発することもあまり好まれません。

⑤ 他人の話をよく聞きましょう

日常会話の中では、他人に意見をされている時や、他人が発言（発表）している時等は最後まで話をよく聞いてから、自分の考えを述べるのが一般的です。相手の意見を何度も遮って自己主張するのはマナー違反です。また、相手が話しているときは、その話し手をよく見て、時おり相づち（相手の話を聞いて軽くうなづくこと）を打つ等すると相手への印象もよりよくなります。

⑥ 周囲に配慮する気持ちを持ちましょう

路上で大声で話したり、夜中に大騒ぎしたりしないで下さい。時間と場所をわきまえた言動をとりましょう。特にアパート等に友人を招き、夜中に大騒ぎをすることはとなり近所の迷惑となりますので、厳禁です。

⑦ 嘘はつかないようにしましょう。

その場のつらい状況を逃れるためや、どうしてもいやというなげやりな気持ちから安易に嘘をついてはいけません。どのような状況でも、正直に説明や話して下さい。日本では嘘をつくこと、社会的な信用が一掃になります。

■ 番外編）入浴のマナー

本県はもとより、日本は世界でも有数の温泉天国であり、公衆浴場（銭湯・スーパー銭湯等も含む）が数えきれない位あります。ここでは大勢で入浴することができる通称「大浴場」の入浴マナーを解説します。なお、体に入れ墨（タトゥー）がある場合には、ほとんどの公衆浴場では入浴ができないので注意して下さい。

① 脱衣所

大浴場の入り口の暖簾をくぐるか、扉を開けると目の前にあるのが脱衣所です。ここでは備え付けの籠（ロッカー等）に着ていた服を入れます下着も全て脱ぎます。そしてタオルのみを持って入浴となります（下着を着けたまま、水着を着用やバスタオルを体に巻いての入浴はいけません）。

② 浴場

大方の浴場では、浴場入口の扉を開けると大きな湯船が目に入るかと思えます。しかし、いきなり湯船に入ってはいけません。まず体をよく洗います。石鹸をタオルにつけよく洗い、できればこの時に洗髪も済ませてしましましょう。洗い場が満席のときは、空くまで順番を待つか、最低でもかぶり湯（桶で湯船からお湯をすくって体にかけること）しましょう。また、使用した椅子や桶はもとに戻します。そしていよいよ入浴です。かぶり湯を3, 4回行います。これらの行為は、湯船を清潔に保つ目的と、体を温泉の温度や効能に順応させるための準備をするためのものです。湯船には飛び込んだりせず、足からゆっくりと体を沈めていきます。タオルは湯船に入れないようにしましょう。

③ 入浴中

気持ちよさに、つい開放的になり、歌等歌いたい気分になるかもしれません

が、ここはぐっとそれをこらえましょう（友人たちとの小声での会話は問題ありません）。ゆっくりと目をつぶり、日ごろの疲れを癒す目的で入浴しましょう。入浴時間は湯温と、個人の体質にもよりますが、5分から15分位が目安です。慣れないうちは5分程度にしておくことを勧めます。これは、長い間湯船につかっていると、「湯あたり（のぼせ）」とよばれる症状を起こすことがあります。症状として、長い間頭が「ボーッ」としたり、吐き気を催したりします。涼しいところで横になれば回復することがほとんどですが、楽しい温泉体験が台無しになってしまいます。また、持ってきたタオルを湯船に入れてはいけません。女性等髪の毛の長い人はゴム等で束ね、湯船に髪の毛が入らないようにしましょう。これも湯船をきれいに保つためのマナーです。

④湯上り

浴場から脱衣所に出るときは、持ってきたタオルで体についてのお湯をふき取ります。濡れたままの体で脱衣所に行くことはマナー違反です。脱衣所で体をさらにふきあげたあと着替えます。

※施設（浴場）によっては「水着」の着用を義務付けているところもあります。

わからないことや詳細は利用施設の係員に聞いて下さい。入浴後は体の水分が多く失われています。水分補給をすることを忘れずに。

（2） 自家用車の購入

運転手としての社会的責任、経済的負担の増大という見地から、自家用車購入の積極的な推奨はしていません（P.24「日本での自動車運転のリスクについて」必読）。もし、自家用車を購入しようと計画している場合は、次のことを踏まえて購入計画をたて、車両を維持して下さい。

①駐車場の確保

駐車場（車両保管場所）が必要となります。自宅から2km内で、購入希望車両が駐車場内に全部収まること等が条件となります。また、地権者（駐車場の持ち主）の承諾、署名、捺印が必要となります。アパート付帯の駐車場利用の場合、月額3,000～5,000円程度の使用料が一般的です。

②車両購入費

車両代金のほか、名義変更費用、車庫証明費用、自動車税や、取得税、リサイクル料等が必要となります。

例：平成15年式マツダデミオ（排気量1,500CC）の中古車を購入した場合

○購入費用：合計21万円（内訳：○車両価格10万円 ○諸費用*11万円）

※諸費用：名義変更手数料3万円、車庫証明申請手数料2万円、リサイクル料1万円、納車費用5万円

③任意保険の加入

交通事故の際に、被害者に対しての賠償費用の一部、または全額を保険で支

払うものです。これは自賠責保険（強制保険）とは別に加入しなければなりません。ただし、飲酒運転等の法令違反の運転の場合には、保険が適用されない（保険金の支払い不可）となることがあります。

例：平成 15 年式マツダデミオ（排気量 1,500CC）・運転手限定なし・運転手年齢 21 歳以上・対人保険補償金額無制限・対物保険補償金額無制限

○年間保険料：約 10 万円／年程度

④自動車税の納入

毎年、4 月 1 日現在の所有者（使用者）が納入する税金です。車両の排気量や、年式によって金額が変わります。

例：平成 15 年式マツダデミオ（排気量 1,500CC）

○自動車税：34,500 円／年（分割納入はできません）

⑤車検

日本では乗用車は 2 年毎に車検を受けなければなりません。

例：平成 15 年式マツダデミオ（排気量 1,500CC）

車検費等：約 10 万円／2 年（故障していないことを前提とする）

これらの費用は、ガソリン代を除き、車両を所有するだけで必ず発生する費用です。また、購入した車両を手放す時（譲渡、廃車）にも一定の費用が発生することがあります。参考までに車両価格 30 万円以下の普通自動車については、その車両を売却するときには買取価格（査定価格）は原則付きません（0 円）。

自家用車を購入する際、学生課に相談して下さい。

～日本で自動車運転のリスクについて～

交通事故を起こした際に、相手が死亡、あるいは重大な後遺障害が発生するような怪我を負わせた場合は、日本円で数億円の損害賠償をすることが多くあります。また、事故の内容次第で被告人として起訴され、裁判の判決内容によっては、罰金の納付や刑務所への収監（懲役刑、禁固刑）となることもあります。なお、道路交通法に違反した場合には反則金や、罰金等の納付の他、違反の内容によっては重大事故同様、刑務所への収監もあります。

物損事故の場合、過失割合によって破損したものを弁償しなくてはなりません。自分の過失が 100%の時は破損させたものを全て損害賠償します。例えば高級車を巻き込んだり、住宅に突っ込み破損させたりした事故の場合は、日本円で数千万円の損害賠償をしなければならないこともあります。過失割合については、加入している任意保険や公的機関（裁判所）等が判断します。

この他、自分自身が怪我を負うリスクも高まります。入院した場合には登校できなくなる上、アルバイトもできません。長い通院期間や後遺障害が残ることもあります。最悪の場合は、自分自身や搭乗者の命を失うことになります。